

外国為替、株式、債券：Techni Hedge Report

周期的売買シグナルと売買ストップの読み方

本レポートは 1991 年より機関投資家、多国籍大企業のヘッジ目的として刊行されたという経由があり、テクニカル・ヘッジという意味でテクニヘッジと名付けられました。今日に至るまで日系著名金融機関の多くが購読者となりました。

金融商品の投資、投機においては、これは天井を売る、底を買う試みを指すとお考え下さい。これは逆張りの試みです。周期的売買シグナルがこれに相当します。

ところで、天井を売ったつもりが、相場はどんどん上がっていった、あるいは、底を買ったつもりが、急落してしまった。その時の損を予め限定する仕組みが損きりです。この損きり水準を提示したのが売買ストップです。売買ストップはボラティリティー・ブレイクアウトと呼ばれるロジックで計算されており、新規のエントリーとしても使用することが出来ます。

チャートと時間枠の読み方：

月足：半年から 1 年の長期ヘッジを目的とします。しばしば長期の天井（底）シグナルを最高値（安値）付近で点灯します。

週足：数ヶ月の中期ヘッジに適しています。

日足：デイリーベースの投機的アカウント、および長期、中期ヘッジのエントリータイミングを定めます。

売買シグナルの読み方：

チャートの上部に表記されたダイヤモンド印はその日に点灯した自動売りシグナルです。

チャートの下部に表記された丸印はその日に点灯した自動買いシグナルです。

シグナルは周期的天井と底をしばしば非常に正確に認識し、逆張りヘッジ注文を入れる最良機会となります。

ボラティリティーストップの使用法：

予測を立てるのは簡単なことです。上がるか下がるか 50%の確率で当てる事が出来ます。では何故投資家の半分ではなく、ほとんどが損失を蒙って市場から退散するのでしょうか？予想が外れたときに、何処で損きりをし、さらに新しい方向に取引を切り替えればよいか、そのレベルが分からないからです。

テクニヘッジ・システムにおいても、天井と底を当てる転換点シグナルが当たらない事はありますが、それ

を早期に認識し、トレンドに乗る順張り取引に切りかえるには、正確で有効なストップ注文を入れておく必要があります。予測が当たらないときには、逆張りを停止し、リバーサル(どてん)注文で順張りに変える必要があります。テクニヘッジ・システムはそれを計算しようとする試みです。

本文中では、買い(売り)ストップ、買い(売り)ブレイクなどと、省略して表記されています。ストップと呼ばれるのは、ストップ注文(逆指値)を使うためです。ブレイクと呼ばれるのはストップ指定値をブレイク(飛び越える)するからです。

売りシグナルが切り上げられると通常そこから強気トレンドが発生します。切り上げを認識するには、週間の買いストップ指定値を適用します。その値でショートを買切りしロングに切り替えます。長期ヘッジ者は「月間」の買いストップ指定値を適用してください。

買いシグナルが切り下げられると通常そこから弱気トレンドが発生します。切り下げを認識するには、週間の売りストップ指定値を適用します。その値でロングを買切りしショートに切り替えます。長期ヘッジ者は「月間」の売りストップ指定値を適用してください。なおシステムのライセンス使用者は、最も効果的なデイリーストップを使用してください。デイリーストップはデイリーレポートにても、毎日提示されております。参考にしてください。

デイリーストップは連続的にエントリーとして常に相場でポジションを持つトレンドフォローの目安に使用することも出来ると思われませんが、ドローダウンをコントロールする為のマナー・マネジメントを併用して適用してください。またタナカ CRM はこれらのエントリーを長年に渡って実戦で使用してきましたが、手仕舞いにはそれ専用のさらに細かいストップを入れる特別なシステムも適用することがありました。この手仕舞い専用のストップは公開していません。その他に、NY 引けにて、もしくはロンドン引けにて手仕舞いする日計りのエントリーとしても有効でした。いずれの手法を選択するにしても、レポートに提示されたストップだけで全てが解決するわけではないことをご承知ください。タナカ CRM は、レポート購読のお客様にはこれらの問題解決のための個々のアドバイスは行っていません。タナカ CRM はコンサルタントとして機関投資家にそのようなサービスを提供しております。レポートに示された情報だけの効用は限定的であることをご承知ください。

テクニヘッジ転換点予測シグナルの計算方法：

2 日から x 日までのすべての時間枠の変動値とリスクを個々に計算する。リスク計測には通常オプションのプレミアム計算に使用する標準偏差リスク計測は適用できないので、独自のリスク計測法を適用する。それらの結果を集計し、方向転換時に特有のパターンを示す時間枠を自動的に抽出し方向転換を認識するフラクタル指数を計算する。

フラクタル指数と呼んでいる理由は、すべての時間枠の自己相似性を計測している点が、フラクタル(カオス)の立体的次元観察と同じだからである。この方式の利点は指数が特有の時間枠を持たないことであり、時間枠の適正化の必要が無い(例えば 22 日の移動平均線が一番良いなどという固有の時間枠観察から開放され、すべ

ての時間枠で同時立体的観察が可能となる)。このような市場計測の方法で「相場転換点」を認識する手法は世界レベルでも他に存在しない。

テクニヘッジ・システム・バージョン5は米国ロピンス・オメガ・システム取引チャンピオンシップ93年度(リアルタイム,リアルマネー6ヶ月運用)にて準優勝し、さらに同年12ヶ月運用で競われた「ワールドカップ・フューチャーズ・トレーディング・チャンピオンシップ」プロフェッショナル部門にて3位入賞した(リアルタイム,リアルマネー運用)。日本人でこれらの著名チャンピオンシップに入賞したのは筆者が初めてである。

ボラティリティーストップの計算方法：

ストップ(損切り)はどこに置けば良いかという疑問に解を与えるために、田中CRMが実施した膨大なシミュレーションの研究結果採用された取引モデルを適用。ボラティリティーを如何に計測するべきか?それを元になどのようにストップの抜け幅を計算すべきか?抜け幅は昨日の引け値から離すべきか、何かの平均値か、過去×日のレンジからか?ストップを有効にどこまで近づけることができるか?などの無数の問いを400の取引基本モデルに類型化して、それらのすべてに数十種の変数を与え、各々の変数を数千から数万まで変化させて、全部で数兆のパラメータをシミュレーションして解を求めた。

パラメータの数は多過ぎて全計算は不可能なので、染色体の進化原理を真似たジェネティック・アルゴリズム(遺伝子演算方)を適用してランダム検索-近似理想解を求めた。

さらに、シミュレーションは通常行われている「後講釈による理想モデルを探す方式」ではなく、全自動外挿テストプログラム(バージンデータ・シミュレーション、ウォーク・フォワード・テストとも呼ばれる)を採用した。実際の取引で実行した場合でも、最も優れた収益特性を上げるストップモデルを検索する。

周期指数の使用方法：

チャートの下部に表記された2重のウエーブ周期指数はフラクタル指数独特の構造を隠す目的でジグザグ指数に変換したもので、テクニヘッジ・システムが認識する周期を視覚的、図式的に提示してある。転換点認識計算はこのフラクタル指数の内部で実行される。

テクニヘッジ・レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものです。売買の最終決定は、読者ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、テクニヘッジ・レポートのいかなる部分も一切の権利はTANAKA CRM社に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で引用、複製または転送などを行うことを法律にて禁じられています。

Tanaka CRM,v.o.f., The Netherlands

Currency Risk Management